

## 銀賞

ワンチーム みんなで高める現場力  
富士フイルムオプトマテリアルズ株式会社  
宮原 元紀

---

17年間製造工程オペレーション一筋だった私は、1年程前に同部設備グループへ異動となった。製造工程の経験が長く、各種設備も良く知っていたため、設備の仕事もできるだろうと当初、非常に甘い考えを持っていた。

私の所属する設備グループは、各種設備の点検や工事の発注、製造機を含む建物や生活エリアなど全ての維持管理が主な業務である。製造機で設備トラブルが起きた際、物によっては他部門保全グループへ対応を依頼するため、窓口業務も行う。メンバーは皆多様な経歴を持ち、専門分野において個々が持つ仕事を淡々とこなす職人肌な人ばかり。ゆえに当初は団体活動をあまり行わないグループなのかなという印象だった。

配属から半年程経った夏の日、自職場の製造機で使用しているクーリングタワーの冷却水温異常が発生したと連絡を受けた。この設備は初めての仕事だった。

調査を開始すると冷却水ポンプはちゃんと動いているし、クーリングタワー内に水も出ている。考えていると次第に温度が下がってきた。「夏の暑さの影響だろうから、少しようすを見て」と深く考えずに工程に伝えた。

しかし後日、製造に影響が出るレベルまで冷却水温度が上昇してしまったがモニターでは冷却水ポンプはやはり動いている。しかし、現地を確認するとクーリングタワー内に水が回っていないようだった。慌ててバケツで水を何往復も運搬補充し、事無きを得たが私は途方に暮れた。

こんなこと続けられない。そんな姿を見かねてリーダーが「大丈夫か」と声をかけてくれ、緊急ミーティングを開催。メンバーへ経緯を説明するとAさんが「クーリングタワー内と同じ井水を使用しているトイレの水が出ない現象が今日発覚した。何か関連がありそうだね。調べるよ」と言ってくれた。

調査の結果、断続的な【井水不足】が原因だと分かった。クーリングタワーは屋上にあり、他に供給できる水源はない。もし、深夜製造中に発生したら、定員ぴったりの交代勤務者でバケツによる水の補充をしなければならなくなり、稼働に影響を与える。今から工事を発注しても数日以上はかかる。その間に製

造機を停止しようものなら供給が足りず、顧客の信用失墜は避けられない。「まず、他の井水使用量を減調整し、使用量を確保したい。加えて、改造工事ができるまで市水を屋上で使えるようにし、不足時簡単に補充できるようにしたいが何か良い案はないだろうか」と私の相談に対し、配管に強い B さんは「市水を使うなら、このバルブ手前の継手からホースを使って屋上に回そう。そうすれば、手軽に水量調整できる。ホースや材料も必要だね。探してくるよ」と言ってくれ、建設時電装設計だった C さんも「ホースを屋上まで引き回すなら、この経路からがいいと思う。屋上までのルートを確認してくるよ」と言ってくれた。

グループ全員の協力により、異常条件は復旧でき、製造終了後の改造工事が入るまで十分な対応が取れる状態となった。製造機を止めることなく、胸を撫で下ろした私に「まずは一安心。だが、改造工事完了と今後の予防や管理について、皆でしっかり詰めていこう」とリーダーに諭され、改めて気を引き締めた。

グループ全員で一つの課題に対応する強さを痛感した我々は、中長期的な管理や季節変動の設備案件、建物の老朽化対策等は毎週開催している定例会で計画的に検討し、個々が日々行っている業務内容は毎朝共有し、緊密な相互助言を行うようになった。今回も、設備異常にもっと早く違和感を持っていれば、先手を打てた。日常の点検等から、普段の設備をよく知ることでトラブルを未然に防げること、チームで取り組む重要性を強く感じた。

これからも、ワンチームで設備と向き合い、TPM を推進していきたいと思う。